

**明治の新潟にあった  
外国領事館**

今から百五十年ほど前、イギリスやドイツ、アメリカなど当時列強諸国と呼ばれていた国々の領事館が新潟にあった、という、何だか夢のような話のように感じられる方がいらっしゃるかもしれません。

新潟は現在も韓国・ロシア・中国の領事館があり、東アジアの拠点都市ですが、開港した当時は世界から注目される町の一つでした。開港後いち早く領事館を設置したのは当時の最強国イギリスでした。

前半（明治二年から五年まで）は西堀通の勝楽寺に、後半（明治九年から十二年



新潟日独協会  
理事・事務局長  
青柳 正俊

# 新潟シティガイド

No. 33号  
《編集発行》  
新潟シティガイド  
《発行人》  
二瓶 芳枝

- ・聞いたことは忘れる
- ・見たことは思い出す
- ・体験したことは理解する
- ・発見したことは身につく

新潟を訪れる自国船や居留民などの利益を代表して活動しました。

領事さんたちが開港したばかりの新潟をとて高く評価していたのは、むしろ驚かされるほどです。

新潟港がどうすればさらに使いやすくなるのか、といった提案をしたりもしました。

やはり開港した年に領事館を設け、その領事館を最後まで維持したのはドイツでした。領事はライオナルという人物が継続してつとめました。彼の本業は貿易商人でしたので、いわば自国居留商人のリーダーとして働いていたわけですが、イギリスの場合と同じように、ライオナルが本国へ

毎年報告書を送っていたのを、私はドイツのある文書館で突き止めました。

その内容を読むと、ドイツ商人と地元商人との係争を仲介したり、港の使い勝手をよくするために税関に掛け合ったりしていたことがわかります。商人兼任領事であったとはいえ、十分に領事としての責任を果たしていたのです。

彼の自宅でもある領事館は、前半（明治二年から十年）は本町通に、後半（明治十年から十五年まで）は下大川前通にありました。

私が所属する新潟日独協会では、開港百五十年を記念して領事館跡地（下大川前通三ノ町）に記念碑を建立しようとして取り組んでいます。また、来年四月に予定するその除幕式にあわせて、全国各地の日独協会関係者による年次総会を新潟で開催します。

シティガイドの皆様からもぜひ応援をいただきたいと思います。



八木 洋

**移動講座「にじいろカフェ」**

新潟は外国交易地として高い可能性を秘めた港町である、と多くの外国人たちが認識していたことは、私たち自身が是非覚えておいてよいことだと思います。また新潟を訪れる方々へもお伝えいただければ幸いです。

**観光ボランティアガイドの意義**

新潟シティガイドの役割として、日本観光振興協会は、ホームページで観光ボランティアガイドについて次のように記しています。「ボランティアアで、自分達が暮らしている地域等を案内・紹介している方々です。無料もしくは低料金を、訪れる旅行者等に地域の魅力を紹介しています。その活動も単なるガイド活動を越えて地域活性化の一翼を担っています。そもそも『ボランティア』とは志願者・義

**広報からのお願い**

- 1 広報紙「新潟シティガイド」の原稿依頼  
広報紙の紙面は、会員の皆さんの投稿原稿で成り立っています。原稿依頼をお願いすることがあります。
- 2 「新潟まち歩きブログ」への投稿依頼  
「新潟シティガイド」をより多くの方に知っていただくため、投稿をよろしくお願ひします。なお、原稿をいただければ代わって投稿もいたします。

**私のガイド日記**



近藤 勲

**支え合いで“お父さん”楽しく**

梅雨空の七月初め「日報メディアシブと萬代橋流作場界隈」のガイドをする。当日欠もあり各班五名編成でスタート。メンバーの中ひとりの年配の男性が気になった。「不具合があったらいつでも言ってください。」と一声かける。

同行各位も気づいて「何歳になリなッたね？」答えて、八十八を過ぎたという。「歩きが遅れるかも、でも気にせず進めてください。」と元氣。「無理せずゆっくり行こうよ。」と一同、労りの声もあり、穏やかな雰囲気が出発する。

年配のこの御方、幼少の頃、沼垂に十年余り過ごした経緯があり、今回はその懐かしさと思い出探しの参加とも。

ガイドを進め、三社神社にきた。ここでは毎日パッチして遊んだとか、玄的踏切の跡では、汽車見物に通いその迫力が忘れられない、



三社神社

とも。

次の古信濃川跡では泳いだり、朝鮮鮎釣り、又ガツボの芯を剥いで喰ったり。・とその場ごとに思い出し話弾む。同行各位も話に乗り、御方をお父さんと呼び冗談を交え楽しく歩く。

万代町通りに入る。ひと休みしようという事で適度な場所でお父さんのお室のご披露が始まる。鞆より一見骨董品と見受けられるカメラが、一同「スゴイ！」聞くところでは、昭和四十年代に漸く購入した逸品だと、「記念に撮ろう」と皆さん勧められるも、撮影なし。「残念。」



受賞ポスター

**ニューズ**

●新潟シティガイド「ロゴ」

「ロゴ」

てから「ロゴ」の検討中。は、新ゴのインデックスの門学校協力を、デザインが決められました。

●発展期待賞を受賞



新潟シティガイド「ロゴ」

会 員 紹 介					
顔 写 真	氏 名	住 まい	趣 味	関心のあること	新潟シティガイドの抱負
	佐藤 祐美子	中央区水道町	・プリザーブドフラワー ・美術館巡り	・建物や庭(見てみたくなります。)	・おすすめスポットを楽しく紹介したい。
	倉地 一則	東区浜町	・名城巡り ・文化財巡り ・温泉巡り	・地域史研究 ・足腰の鍛錬 ・我が夫婦の行末	・先輩諸氏を見習い、新潟ファンが増えるよう、誠心誠意したい。
	鈴木 康弘	中央区鳥屋野	・旅・鑑賞 ・ドライブ ・酒・他多数	・見えにくい未来を、どう考え、どう行動するか	・新潟の町の今昔に、耳目を傾けながら、お客様と語り合えればと思

市民活動支援センター主催の「ポスターセッション2018」に応募。「発展期待賞」に選ばれました。



**編集後記**

新潟開港一五〇周年、当時の新潟町が注目されている。巻頭に寄稿して頂いた青柳正俊様の明治の外国領事館や、イザベラ・バード『日本奥地紀行』に記されている堀や町の様子などを、講義を聞き資料を読むとワクワクする。

この場所から信濃川を眺めたのだろうか、堀から舟に乗ったときの風景はどうだったか。湊や市場の賑わいはどれほどのものだったのか。当時の数少ない写真から、その様子を想像するのも楽しい。

当時の人々が何を食べてどんな日常を楽しんでいたかなどを知ると、ぐつと身近に感じる。

お客様とまち歩きをし、明治時代の様子を感じて頂くためにどうしたらいいのかを考えていくのもワクワクである。

広報委員 柴野雅子





勝見 進

特別企画 「竹あかり花あかり」

今年で七回目を迎える「三夜」のイベント、「新潟竹あかり花あかり」が西大畑白壁通りを中心に一〇月二〇日（土）、二一日（日）の二日間に行われ開催されました。

当会としては、白壁通りに至る近隣の関連施設でもこのイベントに合わせて各種の催事が企画されている事に注目し、「燕喜館から白壁通りまでをあかるく」と題した特別企画を開催しました。



白壁通り神楽

この特別企画には、旧齋藤家別邸、燕喜館、北方文化博物館新潟分館、異人池の会の



新潟大学旭町学術資料展示館

皆様からも趣旨に賛同を頂き開催して頂きました。

集客方法は、「パンフレット」の作成、主催者側パンフレットへの掲載、ホームページへの掲載、「えんでこ」等の機会を捉えてチラシの配布・説明などを行いました。

取材は二〇日（土）に行いましたので、そのポイントについて説明します。

スタートは午後四時。燕喜館はゴールの旧齋藤家別邸の本宅です。その関わりについて説明の後、白山公園へと向かいました。明治維新の頃、開港地に相応しい近代都市建設に貢献した楠本県令や、湊の繁栄を祈願して奉納した「大船絵馬」等にポイントを絞りガイドしました。

医学町を通りに新津記念館を経由して旭町学術資料展示館へと進みました。夕闇が迫る中、玄関に至るエンタランスでは絵付けされた燈籠に火

が点され優しく我々を出迎えてくれました。館内から聞こえる微かな琴の音は澄みゆく秋の深さを感じさせてくれました。砂丘館では竹灯籠にロウソクの灯が、庭園のライトアップと相まって暮れ行く秋の静寂さを演出していました。午後六時には白壁通りに到着。路上では大勢の観客で賑わう中、神楽舞が我々を迎えてくれました。

この度のまち歩きは、町のイベントとコラボレーションする形で企画されましたが、参加者数が一五名と予定より少なかったことは今後の課題だと思えます。

まち歩きにご参加頂きましたお客様達は、さぞ、庭園内の素晴らしい「灯のページェント」に魅了されながら、「三夜の月」を愛でておられた事でしょう。

えんでこ「新潟花柳界巡り」を取材して



田辺 栄子

十月十三日（土）えんでこにいがた花柳界めぐりが行われ、同行させていた

十時にNEXT21に集合した参加者十人は二班に

ガイドさんなしでは歩けない町だった。

そんな中でも郵便局・金魚屋・機屋跡・大きな煙突の染色工場跡・二百年余りの茅葺の旧家・織姫のための保育園など、諏訪神社に始まり伊夜日子神社に終わる歴史と生活感ある町だった。

倉久の美味しい弁当を食べた後、イザベラバードと亀田砂丘に分かれて話し合われた。

面白いまち歩きをするには、テーマが必要でそれを描くのは大変な苦労がある。また来年も参加したいと思っている。

サンセットクルージングに参加して



阿部 芳郎

新潟シティガイド発足十周年記念特別企画「萬代橋西詰と礎町限を巡る」とサンセットクルージングに参加しました。

この企画は二段階からなり、最初にまち歩きを二時間、その後ウォーターシャトルでのクルージングを楽しむというものです。客席数の関係から、お客様の募集は三〇名で他は白



「えんでこ」ガイド

しました。往時の繁栄ぶりが見えてきました。

また庄内屋シンの写真を見ていただくとその美しさに「ほおー」という声。旧有明脇の小路に興味を持たれた方は時々立ち止まりながら興味深そうに周りを見ていました。

白壁通りに入り行形亭を見て、旧齋藤家別邸に到着。特別企画の月あかり・竹あかりのご案内をし、まちあるきを終えました。

参加者からは「新しい発見があり、楽しいまち歩きだった」とや「まち歩きは地域も元気になるいいですね」などの嬉しいお声をいただきました。

終始、参加者どうし、また参加者とガイドが楽しく会話をしながらのわきあいあいとしたまち歩きでした。



「えんでこ」ガイド

老舗が並ぶ古町を歩きながら説明を聞くと「それぞれのお店にこんな長い歴史があるとは知らなかった」とのこと。鍋茶屋通りでガイドが一枚の地図をお見せ

山エリアメンバーが乗船です。

各エリアが独自の発想で自由に使えるという特別基金を使っている事で白山エリアはウォーターシャトルを団体貸切りで乗船という形で企画しました。

実施は九月二〇日（土）で、最初のまち歩きの集合場所はNEXT21、到着場所はグランドホテル裏手のウォーターシャトル乗船場、一四時出発で一六時到着、次のクルージングは同一五分から一時間というものです。お客様は三三名集まりガイド五名で対応です。

当日私は午後のローサ当番で、ガイド終了後急いで駆けつけ、クルージングよりの参加です。各まち歩きグループは順次乗り場に到着。予定人員の四四名はシャトルに乗船、定時に出発しました。

小雨模様の生憎の天気ですが夕日は絶望的といったところですが、そんなことは何のその、船内はなやんだり霧囲気です。客席はほぼ満席、まち歩き後なのでお客様どうし打ち解けてどこかのサークルの団体旅行といった感じですよ。

シャトルは下流に向かい、どんどん下って行きまして、窓から川辺の景色を楽しんで、深澤さんの西港の



サンセットクルージング

説明や、齋藤さんの灯台や信濃川に関するクイズを考えたりしている船がだんだん揺れだしました。

シャトルは港の突堤に沿って進んで行きます。赤い灯台までやってきました。そうです。晴れていればこの辺りから夕陽が見えるはずですが、空は残念ながら雨雲でおおわれていました。シャトルはUターンし上流に向かいました。

萬代橋を通過し、昭和大桥の手前で引き返し定刻に出発地点に到着。楽しい時間はあっという間に過ぎ、名残を惜しんで下船。皆様楽しんでもらえたようでした。



移動講座「にじいろカフェ」



小寺 嘉信

豪商齋藤・燕喜館の魅力について

本題に先立ち「郷土新潟・第五八号」の中から、齋藤家に関する『三國屋』・齋藤喜十郎家と齋藤喜八家、その系譜関係を探る「杉山巖」を紹介させていただきました。

杉山氏は「小澤家文書一七〇九号」等を調査、研究の結果、齋藤喜十郎家の屋号「三國屋」は、祖先が越前・三國湊から新潟に移り住んだがために、屋号を「三國屋」と名乗った。のではなく、初代齋藤喜十郎は元々「三國屋」と名乗る本家から分家し、本家の屋号「三國屋」を使用した。との論文を紹介させていただきました。

一つの仮説として、四代目齋藤喜十郎が明治三〇年頃、沢海の五代目伊藤文吉の次女「らく」を妻に迎えたことから、何度か伊藤家に足を運んだであろうことが容易に察せられるため、訪れた折々、目にしたであ

「まち歩き交流会IN亀田」に参加して



近藤 正雄

十月六日晴天の中、四名の参加で、A班砂丘チャリコース十二名、B班早通りバスコース

九名、C班袋津まち歩きコース二十名で行われた。私は袋津コースに参加した。

新潟平野が内海だった平安時代に、袋津が地図に示されているのには驚いた。町は名前通り、細い小路、自動車泣かせのクランク、

ろう伊藤家の和風建築様式、材料、材質を将来、己が目指そうとする理想の和風建築のモデルにイメージを膨らませたのではないかと。そのような観点から、四代目齋藤喜十郎の本宅・燕喜館（明治四〇年代の建物と推定）と五代目伊藤文吉が八年の歳月をついやし、明治二二年に一応完成した北方文化博物館との幾つかの類似点を拾い出し、比較しながら、話をさせていただきました。本当にありがとうございました。

ガイドさんなしでは歩けない町だった。そんな中でも郵便局・金魚屋・機屋跡・大きな煙突の染色工場跡・二百年余りの茅葺の旧家・織姫のための保育園など、諏訪神社に始まり伊夜日子神社に終わる歴史と生活感ある町だった。倉久の美味しい弁当を食べた後、イザベラバードと亀田砂丘に分かれて話し合われた。面白いまち歩きをするには、テーマが必要でそれを描くのは大変な苦労がある。また来年も参加したいと思っている。

サンセットクルージングに参加して



阿部 芳郎

新潟シティガイド発足十周年記念特別企画「萬代橋西詰と礎町限を巡る」とサンセットクルージングに参加しました。

この企画は二段階からなり、最初にまち歩きを二時間、その後ウォーターシャトルでのクルージングを楽しむというものです。客席数の関係から、お客様の募集は三〇名で他は白